

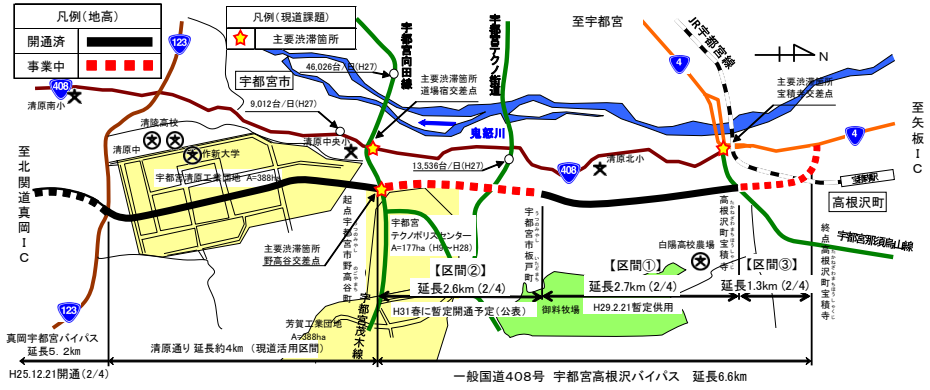
## 再評価結果（平成31年度事業継続箇所）

担 当 課：国道・技術課

担当課長名：東川 直正

事業名	地域高規格道路 <small>じょうごう 道のみやとうぶれんらくどうろ</small> 常総・宇都宮東部連絡道路 一般国道408号 <small>うつのみやたかねざわ</small> 宇都宮高根沢バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	栃木県
起終点	自：栃木県宇都宮市野高谷町 <small>うつのみやしのこやまら</small> 至：栃木県塩谷郡高根沢町宝積寺 <small>しおやくんたかねざわまらほうしやくじ</small>			延長	6.6km
事業概要 常総宇都宮東部連絡道路は、茨城県つくばみらい市の常磐道谷和原ICと栃木県矢板市の東北道矢板ICを結び、栃木県央・北部地域集積圏と小山・下館地域及び土浦・鹿島地域集積圏との交流を強化する延長約100kmの地域高規格道路である。 宇都宮高根沢バイパスは、現在供用中の真岡バイパス及び真岡宇都宮バイパスと連携し、北関東自動車道真岡ICや常陸那珂港などへのアクセス強化、現道の混雑緩和などを目的とした4車線バイパス事業である。					
H21年度事業化	—		H22年度用地着手	H24年度工事着手	
全体事業費	176億円		事業進捗率	約63%	
計画交通量	18,800～33,600台/日				
費用対効果 分析結果	B/C	総費用		総便益	
	(事業全体) 2.2	(残事業)/(事業全体) 72/186 億円		(残事業)/(事業全体) 243/409 億円	
	(残事業) 3.4	(事業費：67/180 億円) (維持管理費：5.5/5.5 億円)		(走行時間短縮便益：179/348 億円) (走行経費減少便益：59/57 億円) (交通事故減少便益：4.9/4.4 億円)	
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=2.0～2.4(交通量±10%) 事業費：B/C=2.1～2.3(事業費±10%) 事業期間：B/C=2.0～2.3(事業期間±20%) (残事業) 交通量：B/C=3.0～3.7(交通量±10%) 事業費：B/C=3.1～3.7(事業費±10%) 事業期間：B/C=3.1～3.5(事業期間±20%)					
事業の効果等 ・北関東自動車道真岡ICや東北自動車道矢板ICへのアクセス強化による産業活動の支援 ・現道における主要渋滞ポイントの解消や慢性的な渋滞の緩和 ・現道交通のバイパスへの転換による交通事故の減少					
関係する地方公共団体等の意見 宇都宮市、高根沢町並びに芳賀工業団地及び芳賀高根沢工業団地に立地する企業により構成される芳賀町工業団地連絡協議会等から早期整備の要望を受けている。					
事業評価監視委員会の意見 事業継続を妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 宇都宮市・芳賀町が施工するLRT事業の平成30年度工事着工					
事業の進捗状況、残事業の内容等 事業進捗率約63%、用地費取得率約98%（平成30年度末時点）					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 今後は早期完了を目指し、工事を推進していく。					
施設の構造や工法の変更等 再生骨材、再生アスファルト合材を活用し、コスト縮減を図る。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	以上の事業効果、進捗状況、事業評価委員会の意見などを踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。				

# 事業概要図



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。